

# 評議員会 議事録

日 時：2002年1月26日(土) 11時00分～16時15分

場 所：国立天文台（三鷹） 大会議室

出席者：井上，太田，岡村，海部，小山，須藤，高橋，舞原，牧島，吉井，家，佐藤（修），谷口，野本，長谷川，松田 以上16名

欠席者：加藤，柴田，千田，高原，福井，池内，石黒，木下，高津，小杉，佐藤（勝），中村，林，渡部 以上14名

有効委任状提出者：千田，高原，石黒，高津，小杉，佐藤（勝），林，渡部 以上8名

他に，理事会から田原理事長，郷田，大石，立松，松原，茂山理事，また，山岡天体発見賞選考委員長，蜂巢研究奨励賞選考委員長，及び，東條事務長が参加した。

議事に先立ち，議長及び署名人を選出した

議長：小山勝二

署名人：岡村定矩，須藤 靖

## 【報 告】

### 1. 前回議事録の確認（資料1）

郷田理事より前回（2001年10月5日）の評議員会議事録が報告され，誤植を修正の上承認された。

### 2. 早川幸男基金援助者選考結果の報告（資料2）

須藤評議員（選考委員長）が2001年度早川幸男基金の選考結果（1年分）について総括報告があった。これに関連して，立松会計理事から，昨年10月の総会で出た意見（早川幸男基金の予算を増やして欲しい）もありフレキシブルな運用をしてほしいとの発言があった。これに対し，須藤委員長から，採択率は60%程度であり，意欲のある若手を採択するようにフレキシブルに運用しているとの回答があった。

### 3. その他

#### (1) 早川幸男基金への寄付について

郷田理事より，早川幸男基金に対し佐藤明達氏より多額の寄付があったことが報告された。「若手研究者の育成という観点から早川基金に」寄付をなさるとの佐藤氏の意向が紹介された。

#### (2) 今後の年会予定等について

郷田理事より，2002年春季年会のスケジュールや公開講演会についての報告，及び2002年秋季年会から2005年秋季年会までの年会会場等についての報告があった。

## 【議 題】

### 1. 2001年度天体発見賞，天体発見功労賞，天文功労賞について（資料3）

山岡天体発見賞選考委員長から2001年度天体発見賞，天体発見功労賞及び天文功労賞候補者の選考結果の報告があった。天体発見賞候補1件についてはプロの研究者による発見であったが当該候補者からの受賞は辞退したいとの意見が紹介され，その意志を尊重して授賞者とはしないこととした。発見賞の細則には受賞者の資格に何の区別もないが，プロの発見を今後天体発見賞の対象とするかどうかについては，細則の改定も含め，天体発見賞選考委員会でじっくり検討してもらうこととした。その他意見交換を行い，それぞれ下記のように満場一致で決定した。

#### ◎ 天体発見賞

板垣公一氏：超新星2001bq及び超新星2001gdの発見

長谷田勝美氏：新星さそり座V1178の発見

中村祐二氏：新星はくちょう座V2274の発見

多胡昭彦氏：新星はくちょう座V2275の発見

BATTeRSプロジェクト：周期彗星 P/2001 W2 (BATTERS)の発見

◎ 天体発見功労賞 畑山和也氏：新星はくちょう座V2275の独立発見

◎ 天文功労賞

(長期に亘る功績)

成見博秋氏：変光星の目視測光 25万点天体

(短期的な功績)

薄 謙一氏：1998年ポン・ウィネッケ流星群の活動を検出

大島誠人氏：2001年のや座WZの増光を検出

村岡健治氏：彗星P/2001 X3を11D/Tempel-Swiftと同定

## 2. 2001年度研究奨励賞について (資料3)

2001年度日本天文学会研究奨励賞候補者の選考結果を蜂巢選考委員長が報告した。意見交換の結果、選考委員会の推薦どおり満場一致で下記のように決定した。

受賞者名：児玉忠恭氏 (東京大学大学院理学系研究科天文学専攻・助手)

研究テーマ：銀河団の形成と進化についての研究

## 3. 2001年度林忠四郎賞及び欧文報告論文賞について (資料3)

2001年度林忠四郎賞及び欧文報告論文賞の選考結果について尾崎選考委員長の代理として海部評議員 (選考委員) が報告した。これについて意見交換を行い、選考委員会の推薦の通り下記のように決定した。

◎ 林忠四郎賞

受賞者名：柴田一成氏 (京都大学大学院理学研究科附属天文台教授)

研究表題：宇宙ジェット・フレアにおける基礎電磁流体機構の解明

◎ 日本天文学会欧文報告論文賞

受賞論文名：First Results of a CO Survey of the Large Magellanic Cloud with NANTEN: Giant Molecular Clouds as Formation Sites of Populous Clusters, PASJ, Vol.51, pp745-749 (1999)

著者：Y. Fukui他23名

その後、推薦数が極めて少ないという問題点を海部評議員が提示し、過去5年間のPASJに発表された論文の引用数を調べて欲しいとの理事会への要望が紹介され、意見交換の後、過去の議論も含めて選考方法について理事会に検討を依頼することとした。特に論文賞について、推薦書式の簡素化、推薦に基づくものだけでなく引用数に基づく上位論文も検討対象とすることについて意見交換を行った。

## 4. 2001年度事業報告案について (資料4)

2001年度事業報告案を郷田理事が説明し、同報告案は原案通り承認された。

## 5. 2001年度収支決算報告案について (資料5)

2001年度収支決算報告案を松原理事が説明し、質疑応答の後、同報告案は原案通り承認された。

## 6. 2001年度監査報告について (資料6)

2002年1月11日に実施された監査の結果、上記事業報告案及び収支決算報告案が正当であると認められたことを監事の代理として郷田理事が報告した。

## 7. 一般会計財政改革案について (資料7)

天文学会の一般会計財政改革に関する検討結果を松原理事が説明した。主な提案は、2つであった。

1) 非会員の年会参加者が全体の約2割近い (特に学生の割合が高い) ことを踏まえ、非会員の講演登録料を見直す (これまで1講演分は無料であった講演登録料を5000円に、追加講演登録料を4000円に改訂する) ことによって、非会員のまま年会に参加するよりも会員になるほうが有利となることを示して会員数が増えるように誘導する。

2) 正会員 (学生) の会員期間を本人に自己申告してもらい、期限がきても特段の連絡がない場合は自動的に退会処理を行う。これを実施するメリットは、現在行っている卒業後の学生への会費請求や郵便物の送付が不要になること、及び、会費の自動引き落としに依り易くなることである。特に学生に関わ

る提案でもあるので、今後春季総会などで説明を行って理解を求めると共に、天体物理若手の会からの意見も聞いてより良い実行案とすること、また、学生が会員になった場合の義務と権利を理解していただくことを確認した。一方、評議員総数を30名から20名にするものの是非について議論を行った結果、削減する方向でさらに理事会に検討を依頼することとした。また、長期的な観点から、学会の中における学生会員の位置付け（受益者なのか将来への投資すべき対象なのか）、会費についても検討していくことを理事会に要請することとした。

## 8. その他

### (1) 会費未納者の除名について（資料8）

2000年度以降の会費未納者を対象とした除名者リストを郷田理事が紹介し、除名が承認された。

### (2) 年会実行委員会からの提案について（資料9）

茂山理事から、財政改革の一環として月報に掲載する年会プログラムのページ数削減案と予稿集のページ数削減案の提案があり、満場一致で賛同することとした。また、2002年秋季年会から企画セッションにおいてコンビナー制を試行する提案があった。コンビナーにはセッションにおける口頭発表とポスター発表の選択、レビュー的講演の選定、発表時間の割当、座長の決定などの権限を与えるとするものである。これについて議論を行い、メリハリをつけた講演にするのは良いことであるという意見、コンビナー制を成功に導くための方策に関する質問、他学会における例の紹介などがあったのち、コンビナー制試行を支持することとなった。

### (3) 総会の運営方法について（資料10）

天文学会総会の運営方法について理事会で検討した結果を郷田理事が下記のように報告した。年会プログラム構成を工夫し、全てのセッションの予定終了時刻を総会開始予定時刻の少なくとも30分前とし、20分前から総会出席正会員の受付（確認）作業を開始して予定時刻になったら受付を終了して有効出席者数を確定させる。受け付けられた正会員には札を渡し、賛否はその札を上げることにより行い、準会員や遅れて入場した正会員のオブザーバー参加を可能にする。（オブザーバーには議決権は与えない）。また、途中退席者には会場出口で札を返却してもらい、議決を採る際の出席者数から除外する。民法第62条及び第64条により議決の対象となる議案は事前に全社員（正会員）に提示しなければならないこと、また、民法第65条により表決権に関して全社員は平等であることから、総会時の修正提案は受け付けることができない。また、「議長」への委任は定款第40条によると理事長への委任となるため、これまで通り無効と扱い、個人名を陽に出した委任状のみ有効と扱う。

これについて意見交換を行った。現状では総会開始以降も入場して来る人が多いという問題はあるが、「遅刻したら議決権を与えない」という厳しい措置は取らずにできるだけ総会開始時刻までに入場するよう呼びかけるなど努力し、実際の運用は理事会に一任することとし、2002年春季総会から実施することを決定した。

### (4) 次回の評議員会の予定

郷田理事から説明があり、2002年3月29日(金)に次回の評議員会を開催することを確認した。

### (5) 会員名簿について

家評議員から「毎年会員名簿を発行して欲しい」との意見が出され、理事会で可能かどうか検討することとした。

2002年2月14日

議長 小山勝二 印  
署名人 岡村定矩 印  
署名人 須藤 靖 印